

馬 城 会 理 事 会 開 催

… 初のリモート理事会 …



令和4年度第1回馬城会理事会は、7月14日（木）午後1時から3時半まで、相馬高校の視聴覚室で行われました。

2月の理事会は、福島県全域で蔓延防止等重点措置が適用されたため、急遽書面会議に変更したこともあり、1年振りの顔合わせとなりました。

本部から、村山正之会長、
佐々木政喜副会長（相馬支部長）、

リモート参加は、佐藤昌利副会長（仙台支部長）と
岩井雄一副会長（福島支部長）のお2人、
遠藤政弘監事、臺内吉重監事
が出席しました。

相馬支部からは、
佐藤史生副会長、
荒井正光副会長、
佐藤重義副会長、
齋川一朗事務局長、
新地支部から、加藤憲郎支部長、
原町支部から、平間勝成支部長、
事務局の相馬高校から、
瓜生康弘校長、
今野直樹事務局長と
松岡浩三事務局員の計15名が参加しました。



今野事務局長のご尽力で、相馬、福島、仙台の三元中継で行うことができました。
校長先生と初対面の方もおり、議事の前に、それぞれの自己紹介から始まりました。

第1回理事会は、通常、総会に向けての内容検討が主題なのですが、
今回は、8月27日（土）予定の総会をどのような形式にするかが議論の中心になりました。
出席者全員から様々な意見を頂きましたが、概ね次の2つに分かれました。

1つは、過去2年間も書面総会であり、停滞している各組織そのものの活性化のため、また、ウイズコロナなので、リモートを含めて開いた方がよいというご意見でした。

もう1つは、7月に入り、特に相馬地方の感染者数が、これまでになく急増している現状では、今回も書面総会にせざるを得ないというものでした。

長時間の話し合いの末、結論は、書面総会となりました。

ただ、会員に対して、総会内容ばかりではなく、現在の活動状況等などがわかる資料も加えるべきであるというご意見を頂きました。



(蛇足)

数十兆個もの細胞でできている人類でさえ、数十万年～数百万年という長い時間のなかで、猿人、原人、旧人、新人と自然界の中で変異？してきた。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の原因の小さな小さなウイルスは、自己増殖のための遺伝情報をもっていて、人類等に寄生し、短期間に次々と変異を繰り返しているという。

不思議なのは、新変異株が、日本中で、あまりタイムラグなしに、ほぼ一斉に増加したり減少したりするのはどうしてなのだろう？

私には、このウイルスに自然に備わっている性質からくる変異か、又は、ウイルスがお互いに未知の信号？をやりとりしているのではないか思えるほどである。

ヒトの移動だけではどうしても合点がいかない私である。

(文責 村山 7月15日)